

福祉サービス第三者評価 評価基準（サービス編：母子生活支援施設版）

評価の着眼点（解説）

- ① 各設問の該当項目に レ 印を付けます。その他に施設独自で行なっている取り組みや工夫している点があれば、自由記述欄に記入します。
- ② 各項目の☆印は重点項目を示します。
- ③ ☆印は2点、その他の項目は1点として計算し、最高8点とします。
- ④ 評価は、次の4段階です。 8点～6点 ⇒ A 5点～4点 ⇒ B 3点～2点 ⇒ C 1点以下 ⇒ D
- ⑤ 評価時点のサービス提供状況で、設問に該当する利用者がいない場合は、いると仮定した場合、どのような対応をするかという視点で回答します。
- ⑥ 各設問で用いている用語の説明や、設問の主旨を理解いただき、自己評価に臨んでください。
なお、次の用語については、特に記載のない限り、次のようにご理解ください。
家族等 ……家族等、身元引受人などをさします。

広島県福祉サービス第三者評価推進委員会

1. 施設の環境整備

(1) 快適な空間

No.	小項目	設問	評価の着眼点
1	快適性への配慮①	<p>施設の共用スペースは、快適な場所となっていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 施設は、安全面に配慮された構造となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 室温・湿度、採光、換気、音は、常に調整された環境となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 清掃が行われ、清潔が保たれている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 出入り口、食堂、保育室、遊戯室、運動場等、活動スペースは適度な広さである</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 季節の移り変わりが感じられるような環境となるよう工夫している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>利用者が過ごす環境は、生活が安定し、活動が豊かになるように人的・物的環境等を計画的に構成し、工夫して整えることが大切です。</p> <p>具体的には、施設、屋外運動場の広さ、遊具・用具の素材、室内の採光、換気、保温、清潔等の環境保健のほか、危険防止や居室の家庭的な親しみ、くつろぎの場といった点への配慮が求められます。平成19(2007)年に提唱された「子どもの生活安心プロジェクト」の中には、「子どもの施設の安全全国一斉総点検」が盛り込まれており、月2回の遊具点検が推奨されています。</p> <p>この設問は、利用者が心地よく過ごすことのできる環境整備についての取り組みを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
2	快適性への配慮②	<p>居室は、利用者にとって安全・安心な場所となっていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 居室は、安全面に配慮された構造で適度な広さとなっている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 室温・湿度、採光、換気は、居室で調整することが可能な環境となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 居室は、子どもが安心して過ごせる環境となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 一人で過ごしたいときに、一人になれる場所がある</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 母子の不安や悩みに対して、いつでも職員が相談に応じる体制がある</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>利用者の成長発達と権利擁護の視点から、生活の場である建物や設備のあり方を改めて見直す必要があるといわれています。具体的には、性別や年齢別に応じた設備、課題を抱えて施設を利用する利用者が精神的に落ち着いて過ごすことのできる場所の確保や職員体制などが挙げられます。</p> <p>この設問は、利用者の立場から見て、居室が安全性や快適性に配慮したものになっているかどうか、施設の工夫や取り組みを評価するものです。</p>

(2)安心な生活

No.	小項目	設問	評価の着眼点
3	防災対策	<p>風水害や地震等の災害が発生した場合、速やかに対応できる体制が整っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 防災対応マニュアルがあり、定期的に見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 災害発生時の外部連絡方法が確立している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 災害発生時の外部連絡方法は、職員・関係者に周知されている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 災害発生を想定した避難訓練を計画的に実施している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 災害発生に備え、必要物品の備蓄を行っている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>事故や災害が発生した場合には、その種類によってさまざまな対応が求められます。そのため、万が一に備えて対応フローチャートや緊急連絡先一覧の作成、救急処置に関する知識と実践方法、関係者との連絡方法や連絡網等について、マニュアル化しておくことが必要となります。</p> <p>また、マニュアルに沿った対応が確実に行われるよう、日ごろから職員に対してマニュアルの周知やそのための研修が継続的に実施されていることも求められます。例えば「ヒヤリ・ハット事例」を蓄積し、その施設で起きやすい事故の傾向を把握し、これらを未然に防ぐための検討を行うことも有効です。</p> <p>この設問は、施設での事故や災害時の対策についての取り組みを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
4	不審者対策	<p>不審者の侵入等に対応できる体制がありますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 不審者の侵入防止策(出入り口の施錠、通報システム等)が講じられている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 不審者の侵入等における対応マニュアル(施設内、施設外)が整備されている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 不審者対応マニュアルは、職員に周知されている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 不審者の情報が、関係機関や近隣住民等から得られるネットワークがある</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 警察や警備会社等との連携のもとで、マニュアルに基づく職員研修が行われている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>不審者が侵入した場合、及び行事等で外出した場合に不審者に遭遇した場合には、利用者の安全を確保すると同時に警察や警備会社への通報等、さまざまな対策が求められることとなります。そのため、万が一に備えて対応フローチャートや緊急連絡先の一覧の作成、緊急処置に関する知識と実践方法、関係者との連絡方法やマニュアル化しておくことが必要となります。</p> <p>また、マニュアルに沿った対応が確実に行われるよう、日ごろから職員に対してマニュアルの周知やそのための研修が継続的に実施されていることも求められます。</p> <p>この設問は、施設での不審者対策についての取り組みを評価するものです。</p>

2. 日常生活の中での支援

(1)計画に基づいた自立支援

No.	小項目	設問	評価の着眼点
5	自立支援計画の策定	<p>自立支援計画の策定は適切に行われていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 自立支援計画策定に関して、統一した様式が整備されている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 自立支援計画策定の際のアセスメント手順が定められている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ アセスメントによって発見された課題が明確になっている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 支援目標は、アセスメントから導かれたものになっている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 自立支援計画策定の経過は、定められた様式に記録され、適切に保管されている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>児童福祉施設最低基準には、「利用者一人ひとりに自立支援計画を策定し、利用者やその家庭の状況等を勘案して、自立を支援するための計画を策定」することが明記されています。計画策定のためには、利用者をよく観察したり、面接を行うことで利用者と共にニーズを探し出し、情報収集の過程を経て、ニーズを明確にしていくことが大切です。ニーズを明らかにする手法としてのアセスメントにおいては、利用者の生活歴や環境を理解し、要望や主訴を踏まえて総合的な視点から具体的なニーズを探ることが重要となります。</p> <p>この設問は、施設で行われているアセスメントについて、様式の有無、手順の制定、課題発見、目標設定、記録の面から、どのような取り組みが行われているかを評価します。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
6	自立支援計画の評価・見直し	<p>自立支援計画の評価・見直しは、適切に行われていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 計画の見直し期間を定め、定期的に見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 母子の状況が変化した場合は、見直し時期でなくても随時見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 計画の見直しの際には、支援目標等に対する評価を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 計画変更の手順を定め、計画変更の必要が生じた場合には、その手順に従って計画を変更している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 見直し・評価・変更の内容は、統一した様式に記録され、適切に保管されている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>自立支援計画は固定的なものではなく、新たなニーズの発生、サービス内容の質的低下、利用者満足度等の観点から見直しをする必要があります。見直し(モニタリング)において、ニーズの変化等を把握し、計画を修正する必要があるときは、再アセスメントを行います。計画策定時に検討を加えたニーズや見落としたニーズがなかったかということも視野に入れながら行うことも必要です。</p> <p>この設問は、施設利用開始時に策定した自立支援計画の見直し、変更について、見直しの期間、評価の実施、変更の手順、記録について評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
7	本人の自己決定・家族等の参加	<p>自立支援計画は、利用者・家族・関係機関の意向や意見を取り入れたものとなっていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 自立支援計画は、母子の日頃の様子を観察したり、直接、意見を聞く機会を設け、その内容を反映させて策定している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 自立支援計画は、家族等関係者の意見を聞く機会を設け、その内容を反映させて策定している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 必要に応じて、専門職の意見を聞く機会を設け、その内容を反映させて策定している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 外部の機関との連携が必要な場合は、連携方法・内容を確認し、その内容を自立支援計画に盛り込んでいる</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 自立支援計画は、利用者、専門職、関係者等の意向や連携方法が整合性を持つように調整して策定している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>自立支援計画の策定には、利用者の心身の状況や生活歴、好みなどの情報や、家族を含めた希望を聞き取り、反映させることが求められます。また、計画策定後も、日々の支援や利用者の言動、表情などから分かるさまざまな情報を加え「その人らしい成長」「その人らしい暮らし」について、職員間で検討しながら、計画策定や見直しにつなげることが大切となります。</p> <p>この設問は、自立支援計画の策定が施設の判断だけで進められるのではなく、利用者本人及び家族等の意見の反映、必要に応じて専門職の意見の徴集、異なる意見の調整を経て行われているかを評価するものです。</p>

(2)生活習慣の獲得

No.	小項目	設問	評価の着眼点
8	健康管理	<p>利用者の発達段階に応じて、健康管理できるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 職員は、母親等の状態や子どもの成長・発達を理解し、医療や健康に関して学習したり、知識を得たりしている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 母子の平常の健康状態や発育・発達状態を把握している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 洗面、洗髪、歯磨き、爪きり、髭剃り等身だしなみについて、発達に応じて自力で行えるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 母親等の状態や子どもの発達段階に応じて、危険な物・場所・行為から身を守るための指導を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 健康上特別な配慮を必要とする母子については、医療機関と連携して日ごろから注意を払っている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>身体の健康は、健全な発達の基本です。利用者の成長・発達の状況に応じて、利用者自らが身体の健康に関して自分で管理できるようになることは、自立につながります。また、健康は、危険な物、場所、行為から身を守ることを利用者の状況に応じて支援することによっても保持することができるといえます。幅広く捉えると、交通ルールを身に付けることも危険から身を守るといえます。</p> <p>さらに、医療的な支援が必要な利用者に対しては、専門的な医療機関と連携することも求められます。</p> <p>この設問は、利用者の状態に応じて、利用者自身による健康管理ができるようにするための施設の工夫や取り組みを評価します。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
9	整理整頓・生活技術	<p>利用者の発達段階や状況に応じて、整理整頓、生活技術を習得できるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 居室の整理整頓、掃除の習慣を身につけられるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 戸締り、施錠の習慣を身につけられるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 母子の状況に応じて、洗濯、布団干し、ごみ捨てを体験させるなど、生活技術が身につくよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 支援は、母子の状況を正しく理解し、必要な時間をかけて行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 支援は、退所後の自立した生活を想定して習慣や技術習得の観点をもって行われている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>将来的に、利用者が施設を退所し自立していくには、基本的な生活習慣・生活技術を身につけることが必要です。これらの技術を身につけるための支援は、子どもの発達段階等によって内容が異なってきます。</p> <p>そのため、職員には利用者一人ひとりの発達状態を正しく把握・理解し、指導内容や方法、時間を適切に計画することが求められます。また、生活技術を高める方法の一つとして利用者にはいろいろな経験を提供することも求められます。</p> <p>この設問は、利用者の状態に応じた生活習慣の確立と生活技術の習得をどのように支援しているかを評価するものです。</p>

(3)社会性の獲得

No.	小項目	設問	評価の着眼点
10	自他の権利の尊重	<p>利用者が人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重し、共生できるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 母子が、自分自身の人格や権利が十分大切にされているという実感や経験を積むように働きかけている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 母子が、人格の尊厳を理解し、他人の権利を尊重できるように働きかけている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 日常的に、同年齢・異年齢の人たちとの交流の機会を設け、円滑な人間関係を育てる環境を提供している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 母子の思想・信教の自由を保障している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 母親等の宗教的活動によって、その子どもの権利が損なわれないよう配慮している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>利用者が人格の尊厳を理解し、他人の権利を尊重できるようになるためには、自分自身の人格や権利が十分大切にされているという実感や経験を積んでいくことが基本となります。</p> <p>そのため、職員と利用者が個別に触れ合う時間を確保して他人に対する基本的な信頼感を醸成することが必要です。また、さまざまな年齢、文化、生活習慣を持つ人と触れ合う機会を提供し、人権に対する配慮や互いを尊重する心を育てる働きかけも必要となります。特に、子どもは多くの意識や行動様式を大人から学ぶため、職員だけでなく保護者等にも他者を尊重する手本となつていただくよう働きかけることも必要です。</p> <p>この設問は、利用者が自分自身や他者の権利を尊重することができるよう、施設での取り組みを問うものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
11	自主性・自律性の発揮	<p>施設での生活の中で、利用者が自主性・自律性を発揮できるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 行事の参加・不参加など、母子からの意見や意向はできる限り尊重している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 母子が意見を表明できるよう、職員との信頼関係を築いている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 能力や状況によって意思を表明しにくい母子に対して、職員が代弁者としての役割を果たしている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 母子から寄せられた希望がすぐに応えることが難しい事柄でも、職員会議等で話し合い、対応を検討している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 希望に応えられない事柄については、その理由をその都度説明し、理解を求めている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>利用者は、遊びや生活を通して年齢に応じた発達をとげていきます。発達の中には自主性・自律性・自己表現力の獲得なども含まれますが、これらは施設が安心して自己表現できる場となっていることが重要です。</p> <p>このため、職員には利用者が自主性・自律性が獲得できるような環境整備や関わり方が求められます。この設問は、利用者の自主性・自律性発揮のために施設が行っている取り組みについて評価するものです。</p> <p>なお、この設問でいう「自主性・自律性」は、休日の過ごし方、金銭の自己管理も含んだものとして評価します。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
12	社会的ルールの獲得	<p>利用者が協調性を養い、社会的ルールや態度を身につけるよう働きかけていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 職員は、普段から振る舞いや態度で模範を示している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 施設での生活、社会生活の規範、約束事を利用者が理解できるような言葉で説明し、指導している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 施設での生活を通して、他者への心づかいや配慮する心が育まれるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 地域行事、施設行事を活用して、社会のルールを習得する機会を提供している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ ルールを守ることで達成感、満足感が味わえるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設においては、利用者の発達に関する十分な理解と、利用者一人ひとりの特性に応じて、生きる喜びや困難な状況に対処する能力を育てることを基本とする支援が必要です。</p> <p>職員には、利用者が成長・自立するため、一人ひとりの状態に合わせて支援する姿勢や環境があるかどうか、利用者の気持ちを大切にしながら利用者自身が取り組もうとする気持ちを育む工夫が行われているか、という視点が求められます。</p> <p>この設問は、協調性や社会的ルールや態度の獲得について施設での具体的な取り組みについて評価するものです。</p> <p>なお、この設問でいう「社会生活の規範」「約束事」「ルール」とは、礼節、他人を重んじる気持ち、適切なコミュニケーションなど、一般的には、「マナー」と呼ばれるものをさします。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
13	性に対する正しい理解	<p>子どもの年齢・発達段階に応じて、性についての正しい知識を得る機会を設けていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう援助している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 年齢に応じた性教育の計画があり、正しい性知識を得る機会を設けている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 年齢相応で健全な異性との付き合いができるよう配慮している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 性教育についての職員学習会を実施している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>子どもの施設における性教育は、自立と共生の力を育てることを基本的な考えとして、年齢、発達段階に応じて性についての正しい知識、関心が持てるよう援助していくことが求められています。そのためには、職員間でも日ごろから性や性教育のあり方について検討し、必要な場合は、職員自身の学習会を実施することも必要です。</p> <p>この設問は、子どもが性に対する正しい知識を得るために施設がどのように取り組んでいるかを問うものです。</p>

(4)学習・進学・就職

No.	小項目	設問	評価の着眼点
14	学習への支援	<p>学習環境の整備を行い、子どもの学力に応じた学習支援を行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう援助している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 静かに落ち着いて勉強できるよう個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、大学受験生のための環境づくりなどの配慮をしている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 学校の教員と十分な連携をとり、一人ひとりの子どもの学力を把握している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 子どもの学力に応じて個別学習を支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 子どもの学校以外の学習を側面的に支援している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>学齢期の子どもが在籍する施設では、子どもが学習する権利を保障し、子どもの学習意欲を十分に引き出すと共に、適切な学習機会の確保・提供が求められます。</p> <p>学習のための環境づくりには、必要な書籍の購入・提供や学習ボランティアの導入など、物的環境・人的環境などを整えることも含まれます。また、職員が子どもの年齢や理解力に応じて指導や支援を行うなども、支援の一形態といえます。</p> <p>この設問は、施設における学習環境の整備と学習支援に関する具体的な取り組みを問うものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
15	進学・就職への支援	<p>学校を卒業する子どもの進路について、「最善の利益」にかなった進路の決定ができるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 早い時期から、進路について自己決定できるような相談、指導を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 保護者、学校、児童相談所などと連携し、進路選択を支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 進路選択にあたっては、子どもと十分に話し合っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 奨学金や進路決定のための経済的な支援制度等についても情報提供している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>進路選択は、子どもの人生においてとりわけ重大な事柄です。子どもが進路を選択するには、子どもに十分な情報提供を行い自己決定を支援すること共に、必要に応じて、保護者、学校、児童相談所などとも連携して多様な判断材料を提供することが必要です。</p> <p>また、進路決定後のフォローアップや進路選択に失敗した場合の対応についても進路決定に関する支援の範囲と捉えて、子どもの「最善の利益」を追求することが求められます。</p> <p>この設問は、学校を卒業する子どもの進路選択について、施設がどのような支援を行っているかを評価するものです。</p>

(5)母親に対する支援

No.	小項目	設問	評価の着眼点
16	相談援助の体制	<p>母親の社会的自立をめざした相談体制がありますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 夜間、休日でも利用者の相談に応じることができる</p> <p><input type="checkbox"/> ② 個別相談に応じるためのスペースが確保されている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 健康、将来の生活設計、単親家庭であることへのストレス等に対する心理的なサポートを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 債務整理、法律等、専門的な知識を必要とする相談に対して、職員は基本的な知識を習得して相談に応じている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 必要に応じて、専門の相談機関を紹介している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>母子生活支援施設には、個々の家庭状況を把握した上で、母親等が自立した生活を送ることができるよう適切な支援を行うことが求められます。母親からの相談は多岐にわたると考えられ、情報提供はもちろんのこと、書類記入へのサポート、関係機関への動向など、母親の不安軽減と自立への自信が増すような支援が求められるといえます。また、母親自身が社会資源を活用することができるよう、専門機関を紹介することも自立支援の一つです。</p> <p>この設問は、施設がどのような相談体制や心理的サポートを行っているか、具体的な取り組みを問うものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
17	子育てに対する支援	<p>母親の子育てに対する不安を受け止め、必要な助言、支援を行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 日ごろから、母親等の不安や悩み等の発見に努めている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 日ごろから、母子の様子を観察し、必要に応じて記録している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 虐待や不適切な養育の可能性があると感じた場合は、速やかに職員間で情報共有し、対応を協議している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 子どもの健康管理についての相談・助言、援助等を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 母親等から要請があった場合は、必要に応じて子育ての方法について助言している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設入所後も、母親にとっては十分に安心して子育てができる状況にない場合があります。また、生活に課題を抱える母親の場合は、子育てに不安を感じたり、子どもへの虐待などの形をとって、不安感が現れることもあります。施設には、根本的な課題の解決・支援と同時に母親の不安感軽減のための支援が求められます。</p> <p>この設問は、母親の子育てに対する不安軽減について、施設の具体的な取り組みを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
18	就労に向けた支援	<p>母親の職業能力の開発や就労支援を行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 母親等の適性や経験、希望等を把握し一人ひとりに応じた就労支援を行うようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 公共職業安定所の活用や就職先の開拓など、母親等の心身状態や意向に配慮した就労支援を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 職場環境に関する相談・助言を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 必要があれば職場との連携・調整を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 職場での権利侵害等の訴えに対して適切に対応している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>母親が社会的に自立するためには、経済的に自立した状態であることが必要条件の一つです。施設には、母親の置かれた状況や心身状態に配慮しつつ、本人の意向に沿った能力開発・就労支援が求められます。また、就労に対する不安への助言や就労後の相談体制の整備など、職場紹介や能力開発にとどまらない幅広い支援も求められます。</p> <p>この設問は、母親の就労について、施設がどのような取り組みを行っているかを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
19	補完的な保育サービスの提供	<p>母親や子どものニーズに応じた保育サービスを行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 早朝、夜間など保育所の保育時間外の保育を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 保育所に通所していない乳幼児を対象とした施設内保育を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 必要に応じて、保育所の送迎を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 休日保育や病後児保育を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 施設内における保育の記録を整備し、育児支援に役立っている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>母親が安心して自立へ向けた活動を行うには、施設内での保育サービスが欠かせません。保育所に通所できない乳幼児に対する保育や、子どもが通っている保育所の保育時間外の保育など、母親や子どもの生活状況やニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供が母子生活支援施設には期待されているといえます。</p> <p>この設問は、施設が提供する保育サービスについて評価するものです。</p>

(6)その他の支援

No.	小項目	設問	評価の着眼点
20	メンタルヘルス	<p>心理的ケアが必要な利用者に対して、心理的な支援を行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 心理的な支援を必要とする母子については、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理支援プログラムが策定されている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 心理支援プログラムは個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が行われている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 必要に応じて、専門職から直接支援を受ける体制がある</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 日常生活の場面においても、心理的援助が行えるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 心理的なケアが必要な母子に接する職員には研修やスーパービジョンを行い、支援の質を維持している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>発達上の課題を抱える利用者や被虐待経験を持つ利用者など、心理的なケアが必要な利用者が増加する傾向にあります。</p> <p>これまで施設で蓄積されてきた育児等の知識と支援ノウハウだけでは対応が難しいケースについては、必要に応じて専門職からの助言を受けながら支援することが必要となります。</p> <p>この設問は、心理的なケアが必要な利用者への支援について、施設の具体的な取り組みについて問うものです。</p>

3. 安心な生活

(1) 虐待の防止

No.	小項目	設問	評価の着眼点
21	虐待の防止	<p>利用者に対する暴力、虐待防止と早期発見に取り組んでいますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 職員が虐待を行わないことを、母子や家族等に周知している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 虐待にあたる事例を示したり、通報先、通報方法を知らせるなど、母子や家族等からも通報できる環境を整備している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 虐待を防止する観点から、密室・死角等の建物構造の点検と改善を定期的に行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 母子が自分自身を守るための知識、具体的方法について学ぶ機会を設けている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 虐待防止の観点から、職員体制（配置や担当の見直し等）を検討している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設においては、体罰はもとより、言葉による暴力や人格的辱め、無視・脅迫等の心理的虐待、セクシャルハラスメント等、不適切な関わりは許されるものではありません。</p> <p>このため、日ごろから職員研修や具体的な体制整備を通じて暴力・虐待防止と早期発見の仕組みを整えておく必要があります。</p> <p>この設問は、利用者に対する暴力・虐待の防止と早期発見の仕組みを施設がどのように整備しているかについて評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
22	虐待の禁止	<p>利用者に対して、虐待を行わないことを徹底していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 「就業規則」等の規程に虐待の禁止を明記している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 職員研修などにおいて、具体的な例を示すなどして虐待禁止を周知徹底している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 万が一、虐待が起きた場合は事実関係等を把握・整理した後に全職員に伝えている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 虐待が起きやすい状況や場面について、研修等を行い、職員は援助技術を習得している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 自傷行為や他者への加害行為を阻止するための方法について検討し、適切に対応している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設においては、いかなる場合においても虐待は許されるものではありません。</p> <p>職員には、研修等を通じて虐待を行わないことへの意識を高めることのほか、日ごろから虐待の起こりやすい状況や場面について検証すると共に、虐待に至らないような援助技術を習得させることが必要です。</p> <p>また、虐待があった場合を想定し、原因や程度、事実確認の方法や就業規則等の規定を整備し、厳正に処分を行う仕組みを整えることが必要です。</p> <p>この設問は、利用者に対する虐待を行わないための施設の取り組みについて評価するものです。</p>

(2)問題行動への対応

No.	小項目	設問	評価の着眼点
23	問題を持つ子どもへの対応	<p>子どもが暴力、不適応行動など、問題行動をとった場合、適切に対応していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 問題となる行動を観察・記録し、誘引や刺激、人的・物的環境との因果関係を分析している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 周囲の子どもの安全を図る配慮が行われている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 職員に対して研修を行い、問題行動に対して適切な援助技術を習得できるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 問題行動に対して、子どもの心身を傷つけずに対応するための体制を整えている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 対応後の子どもの変化を観察し、振り返りを行うなど、次の支援に活かす仕組みがある</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>子どもが問題行動をとった場合、その原因や本人が訴えたいことを理解し検討することが大切です。</p> <p>また、子どもの特性については、職員間で情報共有し、子どもが問題行動をとった場合には適切な対応ができるようにしておく必要があります。必要に応じて児童相談所と情報交換を行ったり、専門医療機関から助言が得られる環境を整えることも考えられます。</p> <p>この設問は、子どもが暴力や不適応行動などの問題行動をとった場合の施設の対応や日常的な取り組みについて問うものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
24	児童間暴力の防止	<p>施設内の児童間の暴力、いじめ、差別などが生じないような措置を講じていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 日ごろから他人に対する配慮の気もちや接し方を職員が模範となって示している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 問題の発生予防のために、建物内外の構造、職員配置や勤務体制について点検、検討している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は、丁寧に観察し、個別援助を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 児童間暴力やいじめが発覚した場合は、職員集団として適切な対応ができるような体制がある</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 児童相談所の協力を要請する基準を設けている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設の中で子ども同士の暴力やいじめ、差別などがないよう、日ごろから他人に対する配慮の気持ちや接し方、人権に対する意識を施設全体で徹底することは重要なことです。</p> <p>子ども同士のいじめや暴力が発覚した場合の対応については、職員間の連携の方法や施設長の役割など、あらかじめ体制を整えておく必要があります。</p> <p>この設問は、施設の中で子ども同士のいじめや暴力、差別の防止と万が一発生した場合の対策について施設の取り組みを評価するものです。</p>

(3)衛生管理

No.	小項目	設問	評価の着眼点
25	食中毒・感染症対策	<p>食中毒や感染症に対する予防及び発症後の対策は、適切に行われていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 食中毒に関するマニュアルがあり、定期的に見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 感染症（予防・対応）に関するマニュアルがあり、定期的に見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 食中毒、感染症が発生した場合に、関係機関に連絡する体制があり、その方法が職員に周知されている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 食中毒・感染症に適切に対応できるよう、職員研修を実施している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 食中毒・感染症について、乳幼児に必要な情報を分かりやすく説明し、必要な対応ができるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>食中毒や感染症が発生した場合は、医療機関との連携のほか、保健所や所轄官庁等への報告など、さまざまな対応が求められます。</p> <p>そのため、方が一に備えて対応フローチャートや連絡先一覧の作成、救急処置に関する知識と実践方法について、マニュアル化しておく必要があります。これらの対策は、予防を含めた内容であることが求められます。さらに、マニュアルに沿った対応が確実に行われるよう、日ごろから職員に対してマニュアルの周知やそのための研修が継続的に実施されていることが求められます。</p> <p>この設問は、施設で食中毒や感染症が発生した場合の対策、及びこれらを予防するための対策についての取り組みを評価するものです。</p>

4. 家族等に対する支援

(1)家族への支援

No.	小項目	設問	評価の着眼点
26	家族(親族を含む)への支援	<p>利用者と家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制がありますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 家庭訪問や親との面接を通じて家族へ働きかけを行い、親子関係の継続や修復に努めている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 入所後も、家族と自立支援計画について確認する機会を定期的に設けている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 面接、外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、家族の関わりのお適切さを確かめている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 施設と家族との間に信頼関係を構築するよう努めている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 子どもが家庭との交流を望む場合、積極的に支援している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設では、子どもに対する愛着が芽生え、家庭での養育が可能となるよう親子関係の継続や修復に向けた支援が行われます。施設入所後も養育計画について家族と話し合う機会を設けたり、子どもの日常生活の様子を定期的に知らせるなど、家族との再統合、家庭復帰を意識した支援が求められます。</p> <p>この設問は、利用者と家族等との関係調整や家族からの相談に対して施設がどのように取り組んでいるかを評価するものです。</p>

(2)親子関係等の継続・回避等

No.	小項目	設問	評価の着眼点
27	夫等との関係調整	<p>夫等との関係調整のための支援を適切に行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 夫、前夫、内夫、子の父との関係について母親等からの相談に応じている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 婚姻関係の調整に関する相談に応じている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 離婚手続き等について法律相談の紹介や必要に応じて家庭裁判所への同行などを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 支援は、母親等の自己決定を尊重して行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 支援方法や内容は職員間で方針が共有されており、必要に応じて施設内で協議している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>夫との関係調整の支援は、施設の基本的な役割の一つです。母親を精神的に支えると同時に、必要に応じて関係法令など専門的な知識を用いて、個別支援を行う必要があります。</p> <p>この設問は、母親が夫等との関係調整を図る際に施設がどのような支援を行っているかを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
28	強引な取引への対応	<p>保護者等からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保できる体制がありますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 強制引き取りへの対応について、職員に周知徹底している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 保護者からの強引な引き取りの可能性がある子どもについては、あらかじめ対応を決めている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 引き取りの可否について、児童相談所と連絡を取り協議している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 周囲の子どもへの影響を配慮して対応している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 強制引き取りへの対応は、子どもの心理面にダメージを与えないよう配慮されたものとなっている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合には、あらかじめその際の対応について、職員間で検討し、統一した対応が取られるよう周知徹底しておくことが重要です。</p> <p>そのうえで、児童相談所との連携や緊急事態に備えて警察とも連携することも必要となります。</p> <p>この設問は、保護者からの強引な引き取りがあった場合の対応について施設の取り組みについて評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
29	夫等からの暴力回避	<p>夫等の暴力により保護を必要とする母子の安全確保を適切に行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 本人の所在の秘匿について関係機関と調整し、理解と協力を得ている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 発見への怯えがみられる母子に対して、外部との連絡のとり方、日常生活の代行等を打ち合わせしている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 発見への怯えがみられる母子に対して、子どもの教育権が損なわれないよう、教育委員会等関係機関と連携している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 発見の恐れが出てきた場合は、福祉事務所と連携して他施設に移動できるような体制がある</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 母子の安全確保とともに精神的な安定が図られるような支援を心がけている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>夫等の暴力などにより保護を必要とする母子については、安全確保の視点を第一に考えた支援が必要です。</p> <p>福祉事務所との連携をはじめとして、状況に応じて適切な判断が求められます。また、施設内で母子が生活を継続するための具体的な方法についても、あらかじめ方法を検討しておくなど、母子の不安軽減や精神的な支えを行う必要があります。</p> <p>この設問は、夫等の暴力などにより保護を必要とする母子への具体的な支援について評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
30	緊急利用への対応	<p>夫等の暴力により保護を必要とする母子の緊急利用に適切に対応していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 緊急利用の受け入れは、平日・休日ともに24時間可能である</p> <p><input type="checkbox"/> ② あらかじめ緊急利用を想定して、職員間で適切な対応方法を検討している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 緊急一時保護後の入所相談については、母子の心身状況に十分配慮して対応している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 必要に応じて出動を要請できるよう警察等と連携している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 広域入所促進事業(施設機能強化推進費)等を利用して緊急利用のための生活用品等をあらかじめ用意している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>現在、母子生活支援施設には、曜日や時間、地域等にこだわることなく、保護を必要とする母子の緊急利用を広く受け入れることが求められています。</p> <p>このため、施設には、当面の対応手順や連絡体制のほかに役割分担、責任者の明確化、警察等との連絡体制などを決めておくなど、施設としての体制を整えておく必要があります。</p> <p>この設問は、緊急利用が必要な母子への対応をどのように整えているかを問うものです。</p>

5. 専門性の向上・地域とのつながり

(1)地域とのつながり

No.	小項目	設問	評価の着眼点
31	施設機能の地域還元	<p>施設の持つ機能を地域に還元する取り組みを行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 施設内の集会室や庭などを、地域の児童関係団体または住民が利用を希望した場合は、利用できるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 施設で実施している活動の中で、参加対象を限定しないものについては、積極的に受け入れを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 地域の求めに応じて、職員を講師として派遣している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 施設が行事を行う際には、地域住民にも広く参加を呼びかけている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 清掃活動に参加したり、行事を準備段階から手伝うなど、積極的に地域住民と一緒に活動する機会を設けている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>「福祉施設は、地域の財産」という考え方があります。そこに働く職員の持つ専門知識や施設設備は、地域にも開かれ還元されることが求められるようになってきています。</p> <p>この設問は、施設のもつ機能を地域にどれだけ開いているか、設備及び活動メニューの開放、人材面での協力、行事を通しての交流という面から評価するものです。</p>